

2018年度（平成30年度）
事業計画書



学校法人

和泉短期大学

2018.3.23

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	10
3. 専 攻 科	18
4. キリスト教活動	20
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	38
7. 広 報 活 動	46
8. 施設・設備・経費	49
9. 財政の概要	52

和泉短期大学の沿革

1956 年 5 月 (昭和 31 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960 年 5 月 (昭和 35 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964 年 6 月 (昭和 39 年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965 年 4 月 (昭和 40 年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員 40 名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966 年 3 月 (昭和 41 年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971 年 11 月 (昭和 46 年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976 年 4 月 (昭和 51 年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4 月	学生入学 定員 250 名 に変更認可された。
8 月	全学神奈川県相模原市の 新校舎に移転 した。
1978 年 2 月 (昭和 53 年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981 年 2 月 (昭和 56 年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7 月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985 年 4 月 (昭和 60 年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員 80 名)
1986 年 6 月 (昭和 61 年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988 年 3 月 (昭和 63 年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。(定員 100 名)
4 月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990 年 4 月 (平成 2 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状 取得の課程として認可された。
1991 年 3 月 (平成 3 年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。

1992 年 2 月 (平成 4 年)	保母養成課程が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4 月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、和泉福祉専門学校とした。
9 月	花村春樹学長退任、後任として教授北原歌子氏が学長に就任した。
1995 年 4 月 (平成 7 年)	北原歌子学長退任、後任として阪田勝三理事長が学長に就任した。
1996 年 4 月 (平成 8 年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事平良氏が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として讃岐和家氏が学長に就任した。
1999 年 4 月 (平成 11 年)	教育職員免許法改正に伴い、再課程認定の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000 年 4 月 (平成 12 年)	児童福祉科の名称変更を行い、児童福祉学科とした。
2001 年 4 月 (平成 13 年)	男女共学制度を導入した。
2002 年 4 月 (平成 14 年)	讃岐和家学長退任、後任として教授伊藤忠彦氏が学長に就任した。
2006 年 5 月 (平成 18 年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典が行われた。
2008 年 3 月 (平成 20 年)	(財) 短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6 月	平良理事長退任、後任として伊藤忠彦学長が理事長を兼任した。 (深町正信氏が理事長に就任するまでの間)
10 月	伊藤忠彦理事長退任、後任として理事深町正信氏が理事長に就任した。
2010 年 3 月 (平成 22 年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4 月	和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を開設した。(定員 20 名)
2013 年 4 月 (平成 25 年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、学校法人和泉短期大学とした。
2014 年 4 月 (平成 26 年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授佐藤守男氏が学長に就任した。
2015 年 3 月 (平成 27 年)	(財) 短期大学基準協会の 2 回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016 年 5 月 (平成 28 年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演
2017 年 10 月 (平成 29 年)	児童福祉研究室設置

設置学校法人 学校法人和泉短期大学

理事長 深町 正信 (ふかまち まさのぶ)

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

設置学校 和泉短期大学

学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科

入学定員

収容定員

児 童 福 祉 学 科 (2 年制)

250 名

500 名

専攻科介護福祉専攻 (1 年制)

20 名

20 名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」（聖書：マタイによる福音書第5章16節）

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

2015年10月28日教授会改訂

本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づく教育課程表科目群の1群（教養）、2群（原理）、3群（知識・技能）4群（実践）のカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士（児童福祉学）の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
2. 保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。
3. 保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

2015 年 7 月 22 日教授会改訂

CP I：教養

「キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を再構築する」

CP II：原理

「多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養う」

CP III：知識・技能

「子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける」

CP IV：実践

「学んだ価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積みながらキャリア形成の基礎を培う」

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2018 年 3 月 12 日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な専門的知識・技能・価値を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に求める学習経験：児童福祉学科】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、保育・福祉の学びの基盤となります。①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、が高等学校及び児童福祉学科における学びの連続により獲得されることに留意してください。児童福祉学科入学希望者には、高等学校卒業までに下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に求める学習経験：専攻科介護福祉専攻】

主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学ぶ専攻科は、保育士養成課程での学びを基盤としています。①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、が保育士養成課程及び専攻科における学びの連続により獲得されることに留意してください。専攻科入学希望者には、保育士養成課程での学びのなかで、下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

学校法人和泉短期大学基本構想

建学の精神
スクールモットー

【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】
【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第5章16節】

－2018年度－

専攻科介護福祉専攻
の存続の検討

入試・広報活動の
再点検を行う

福)相模和泉福祉社会
和泉保育園との
協力関係の構築

収支均衡により
法人の財政状態
を維持

大学を取り巻く環境

18才人口の減少	大学進学率		大学等の 財政赤字 (支出超過)	大学の離学者・進路変更	短期大学の 競合校
	大 学	短期大学			
1992年 205万人 2018年 118万人 2040年 80万人	1992年度 24.6% 2017年度 52.6%	11.7% 4.7%	2015年度 大学 40.8% 短大 56.8%	2013年度末 約120,000人 3.3% (経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等) 非正規雇用の増加	専門学校への 進学者増加 2016年度 22.1%

今年度の目標と課題

1. 災害・防災・安全強化対策

校舎の防災機能強化のために、1号館図書館天井
(非構造物)耐震補強工事。
(文部科学省補助金＜私立学校施設の耐震化等・防
災機能強化対策事業＞

5. 地元密着型、実力養成型の短期大学

建学の精神とスクールモットー(愛と奉仕)を具現化
した保育者・介護福祉士の養成。

2. 外部資金の獲得

2018年度収入構造が厳しい状況下で、外部資金
の獲得(経営改革総合支援事業、教育・研究装置等
の整備補助金)に向けて教職協働で対応する。

6. 2020年高大接続改革に対する準備

2019年度の消費増税、2020年度の高大接続改革に
よる入試制度の変更に備え、3つのポリシーの再考、
入試制度の改革を検討する。

3. コンプライアンスとガバナンス

理事・監事・評議員のもとに、健全な大学運営を行
う。さらに、2期目に入る学長のリーダーシップを一層
強化し、コンプライアンスとガバナンスを深化させる。

7. 教育研究装置の整備

予測不可能な未来社会において、教育研究の質の
向上とIT化による技術の急激な変化に学生が対応す
るため、ラーニングセンターwillの機器備品の充実を
図る。

4. 事務組織の体制強化

経理・施設ユニットと庶務ユニットを統合し、効率及
び円滑な事務体制を整備。
また、広報渉外ユニットの人員を増加し学生募集の強
化を図る。

8. 実習ボランティアセンター

実習における学生支援の機能を一層強化するため
に、実習センターを独立し、ボランティアセンターを地
域密着型にするために、地域連携推進センターと統
合する。

1.学校法人和泉短期大学

「2018年度事業計画」

理事長 深 町 正 信

今年度は一言で言えば、あまり大きな計画を立てることをせず、「大学、短期大学の未来、冬の時代」と言われる時代に対応することを最優先して2018年度の事業計画を堅実に実施していきたいと思います。

2018年度、日本は18歳人口の急激な減少と少子・高齢化社会を迎えています。そして、日本の大学、短期大学、専門学校への受験人口の数が2040年には約40万人程度が減少すると予測されています。しかし、授業料の安い国立大学、公立大学、都内の有名私立4年制大学への入学希望者は昨今の女性の高学歴志向の高まりもあり、むしろ、受験者が増加すると予測されています。したがって、これまでに増して今年度の和泉短期大学の運営、経営の在り方は非常に厳しくなります。本学の教育の健全な存続のため、今後を予測して課題に取り組みねばなりません。

そもそも、日本に於ける短期大学の誕生は1950年、新しい制度として発足しました。第二次世界大戦後の日本の急激な経済成長に伴い、より働き手が多く求められるようになり、更に、女性の高学歴志向と相俟って、和泉短期大学も大きく伸びてきました。その結果、これまでの短期大学の存在は、4年制大学とともに、戦後の日本人女性の教育文化の普及と向上に多大な役割を果たしてきたことは誰しもが認める場所と思われれます。特に、日本に於ける女子のための短期大学は、その多くが2年間の集中型の教育をめざすもので、4年間の大学教育にも匹敵する内容のあるものでした。特に、幼児教育、医療、福祉の分野では、これまでに果たしてきた役割は実に大きく、多様であり、又、その地域に密着した幼稚園教諭、保育士、栄養士、介護福祉士、看護師等の専門的職業人の養成に大きく貢献してきました。そういう意味に於いても、わが国のそれぞれの地域の文化と産業の向上と発展に大きく貢献を果たしてきました。

しかし、2001年度になると、日本にある短期大学の過半数は毎年、受験者の定員を充足することが出来ず、平均すると、その全体の67%の短期大学が定員割れの厳しい状況を、ここ数年間にわたり続けています。その結果、短大として、充足して存続するものと、定員割れを起こす短期大学との二極化が起きています。更に、近年では短大よりも、4年制大学の高等教育への進学を希望する者の数の方がむしろ徐々にではあるが増加して来ているという事態も起きています。このような意味でも、わが、和泉短期大学を含めて、日本のすべての短期大学にとり、大きな転換期を迎えていると思われれます。4年制大学のみでなく、特色ある専門学校

と競合の時であります。

日本の大学の入学定員は文部科学省によると、2016年4月時点で約59万3千人でした。他方、18歳人口の減少に伴い各受験校の定員割れが広がっており、現在では私立大学の約40%が、その定員を満たしていないとされています。

さて、これまでの短期大学の特徴としては、第一に、学位が取得できる短期高等教育機関、教養教育と専門教育のバランスの取れた高等教育機関、職業能力を育成する高等教育機関、小規模できめの細かい教育を行う高等教育機関、アクセスしやすい、身近な高等教育機関、教育の質が保証された高等教育機関として実績を残してきました。

そこで、私たちは、和泉短期大学の今後の在り方を抜本的に、今こそ、真剣に考えてみる必要があります。こういう意味からも、今年度はまさに根元を養う冬の時代とも言えるべき厳しい時代を迎えていると言っても決して過言ではないのです。

わが和泉短期大学を含めて一部の短期大学の存在意義は見方によって、むしろ、高まってきており、女性の社会進出、政府の働き方改革の実施等により、一層多くの保育園の必要性、資格をもつ保育者、社会福祉士、介護福祉士等の養成が緊急に強く求められています。特に、保育、社会福祉の分野は、むしろ、その働き方やその待遇の改善、環境整備等が早急に実現されようとしているのです。

このような現状認識に立ちつつ、わが和泉短期大学の今年度の事業計画としては、例年のように「地元密着型」と「実力養成型」の短期大学として、これまでと同様に、良き専門職としての保育者、様々な社会福祉施設等で介護福祉士として働きたいという人の養成に全力で取り組んでいきたいです。保育、社会福祉、介護、医療の分野に、政府としても様々な改革、待遇の改善等の具体的政策を提言しているところですが、和泉短期大学の卒業生たちがこの地元、神奈川県を中心として、特に、相模原市を中心として良き保育士、温かい介護福祉士、幼稚園教員として活躍をされていることは何よりも大きな喜びであり、誇りでもあります。

2018年度の事業計画としては大きく分けて四つの課題を中心として具体的に検討しつつ、和泉短期大学の運営、経営方針を進めていきたいと考えています。第一に、専攻科介護福祉専攻の存続については、抜本的に検討するということです。20名の入学定員ですが、この数年の入試の受験者の実績を見ますと、厳しい状況にあります。これでは和泉短期大学の財政全体を圧迫することになりますので、むしろ、児童福祉の特色をもつ和泉短期大学のカリキュラム、また、教育全般の中で、何等かの形でこれを生かす方向で検討する必要があると考えています。又、今後、その存続をどうすべきかを、できるだけ早く決断し、それを実行することとしたいです。

第二に、入試広報活動の再点検とその充実という課題です。このためには現在まで9回にわたり実施してきた相模原市内の高等学校長との教育研究会の持ち方と更なる信頼関係の強化と構築を推進していくという課題であります。つまり、地元の高等学校への広報活動の新たな見直しとその充実です。その上で、更に、入学試験の在り方、入試時期の再検討、学生定員と教職員の適正な人数の検討、教育の質の向上、地域に役立つ具体的な研究と啓蒙パンフレットの発刊、本学のWebの充実、動画のUP、SNS対策（Line、Twitter）の強化等の課題の推進であります。

第三に、地元保育園、特に、和泉保育園との正しい協力関係を構築し、その当面している諸問題の解決を少しでも前進させるという取り組みです。現在の園長は本学出身の方であり、現在、保育園の理事、評議員には、本学の現任教職員の中から2名を推薦していることでもあり、そもそも、この保育園の移転、新園舎建築の際には和泉短期大学の校地の一部を提供していることから、今後はもっとその経営と運営とを積極的に支援して、その責任を果たし、その協力関係を深化させていく必要があろうと考えています。つまり、両者の責任ある関係を正しく構築し、両者の関係を深めていきたいと願っています。

第四に、今年度は財政的には厳しい状態がまだ続くものと思われますので、『出来るだけ出るを制し、入るを計る』ところの健全な会計の執行を厳しく行っていきたいと願っていますので、関係者の皆様方の一層のご理解とご協力とを心からお願いを申し上げます。

法人事業計画

○理 事 会

2018 年	5 月	26 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2018 年	10 月	26 日 (金)	理事会 (予算骨子)	於：和泉短期大学
2019 年	1 月	25 日 (金)	理事会	於：和泉短期大学
2019 年	3 月	22 日 (金)	理事会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2018 年	5 月	26 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2018 年	10 月	26 日 (金)	評議員会 (予算骨子)	於：和泉短期大学
2019 年	3 月	22 日 (金)	評議員会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

➤ 出席者：理事長、学長、チャプレン、副学長（教務部長）、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2018 年	4 月	4 日 (水)	4 月	11 日 (水)	4 月	18 日 (水)	4 月	25 日 (水)
	5 月	2 日 (水)	5 月	9 日 (水)	5 月	16 日 (水)	5 月	23 日 (水)
	5 月	30 日 (水)	6 月	6 日 (水)	6 月	13 日 (水)	6 月	20 日 (水)
	6 月	27 日 (水)	7 月	4 日 (水)	7 月	11 日 (水)	7 月	18 日 (水)
	7 月	25 日 (水)	9 月	5 日 (水)	9 月	12 日 (水)	9 月	19 日 (水)
	9 月	26 日 (水)	10 月	3 日 (水)	10 月	10 日 (水)	10 月	17 日 (水)
	10 月	24 日 (水)	10 月	31 日 (水)	11 月	7 日 (水)	11 月	14 日 (水)
	11 月	21 日 (水)	11 月	28 日 (水)	12 月	5 日 (水)	12 月	12 日 (水)
	12 月	19 日 (水)						
2019 年	1 月	9 日 (水)	1 月	16 日 (水)	1 月	23 日 (水)	1 月	30 日 (水)
	2 月	6 日 (水)	2 月	13 日 (水)	2 月	20 日 (水)	2 月	27 日 (水)
	3 月	6 日 (水)	3 月	13 日 (水)	3 月	20 日 (水)	3 月	27 日 (水)

○法人行事

2018 年	4 月	16 日 (月)	イースター特別礼拝
	5 月	14 日 (月)	創立記念礼拝
	5 月	21 日 (月)	ペンテコステ礼拝
	10 月	15 日 (月)	召天者記念礼拝
	12 月	3 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	8 日 (土)	クリスマス・コンサート
	12 月	17 日 (月)	クリスマス礼拝
2019 年	1 月	7 日 (月)	新年礼拝

2.和泉短期大学

「2018年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

今年度、学校法人和泉短期大学は創立 62 周年を迎えますが、建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」を堅持し、これから先も福祉・保育・幼児教育の専門職の養成にあたっていきたいと思いをします。

ところで、2018 年度も、大学を取り巻く状況は厳しく、少子化に伴う定員未充足の大学、短期大学はますます増えると予想されます。その上、保育職や介護職において新聞、テレビ等でのネガティブな報道等の影響で、本学におきましても 2017 年度、2018 年度と 2 年連続で入学定員 250 名を満たすことができませんでした。また、経済の悪化等により、中途退学者もますます増えることも避けられません。

これらの状況をいろいろな角度から調査・分析し、本学の「教育の質の向上」、並びに、「学生支援の強化」を一層強めて参りたいと思います。

1) 学内のガバナンス及びコンプライアンスの強化

- ①委員会組織の見直し
- ②学事内容の見直し

2) 教育活動の強化

- ①FD&SD の強化
- ②時間割の見直し
- ③シラバスの見直し
- ④G P A の活用
- ⑤「授業に対する意見調査」の改善
- ⑥教職員の授業参観による授業評価の改善

3) 研究活動の強化

- ①児童福祉研究室の運営
- ②科学研究費申請の奨励

4) 学生生活の向上にむけての支援

5) 相模原市及び市内大学との連携強化

6) 和泉短期大学父母会・同窓会いずみ・後援会との連携強化

(1) 学事予定

2018 年 4 月	2 日 (月)	入学式
	3 日 (火)	1 年前期オリエンテーション① 2 年前期始業礼拝、グループミーティング、前期オリエンテーション① 専攻科前期オリエンテーション①
	4 日 (水)	1 年健康診断 2 年前期オリエンテーション②、 専攻科前期オリエンテーション②、健康診断、教科書販売 全教員打合せ会
	5 日 (木)	1 年前期オリエンテーション② 2 年健康診断、教科書販売、専攻科前期授業開始
	6 日 (金)	1 年教科書販売、新入生研修会 2 年前期授業開始
	9 日 (月)	1 年前期授業開始
	16 日 (月)	イースター礼拝
	21 日 (土)	オープンキャンパス①
5 月	12 日 (土)	ミニオープンキャンパス①
	14 日 (月)	創立記念礼拝
	16 日 (水)	実習連絡会 (幼稚園)
	18 日 (金)	2018 年度第 1 回創立記念フェア
	22 日 (火)	高校教員対象進学説明会①
	23 日 (水)	高校教員対象進学説明会②
	27 日 (日)	オープンキャンパス②
	27 日 (日)	オープンキャンパス②
6 月	1 日 (金)	保育福祉科目教員研修会
	2 日 (土)	1 年保育士を志す学生の集い
	6 日 (水)	FD 研修会
	9 日 (土)	ミニオープンキャンパス②
	11 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園) 〈6 月 29 日 (金) まで〉 専攻科介護実習 I 〈6 月 18 日 (月) まで〉
	13 日 (水)	1 年避難・防災訓練、感謝の祈り
	16 日 (土)	iA0 入試 I 期特別授業① オープンキャンパス③
	22 日 (金)	日本キリスト教社会福祉学会 〈23 日 (土) まで〉
	30 日 (土)	ミニオープンキャンパス③
	30 日 (土)	ミニオープンキャンパス③
7 月	2 日 (月)	1 年幼稚園ふれあい体験 2 年実習予備日
	3 日 (火)	かながわ高齢者福祉研究大会
	13 日 (金)	2018 年度第 2 回サマーフェア
	14 日 (土)	iA0 入試 I 期特別授業②、オープンキャンパス④
	23 日 (月)	前期終了感謝礼拝
	26 日 (木)	WEEKDAY CAMPUS VISIT①
	27 日 (金)	WEEKDAY CAMPUS VISIT②、1 年、専攻科前期授業終了
	28 日 (土)	1 年、専攻科前期定期試験① iA0 入試 II 期特別授業①、オープンキャンパス⑤
	30 日 (月)	1 年前期定期試験② 専攻科介護実習 I (訪問介護) 〈8 月 8 日 (水) まで〉
	31 日 (火)	1 年前期定期試験③、保育実習 I 成績報告書締切日
8 月	1 日 (水)	1 年夏期休業開始 〈9 月 2 日 (日) まで〉
	4 日 (土)	2 年夏期休業開始 〈8 月 26 日 (日) まで〉
	4 日 (土)	iA0 入試 I 期 1 回目

8月	6日(月)	iA0入試Ⅰ期2回目
	7日(火)	iA0入試Ⅱ期特別授業②、ミニオープンキャンパス④
	9日(木)	専攻科前期定期試験②
	10日(金)	専攻科前期定期試験③
	11日(土)	専攻科夏期休業開始〈9月2日(日)まで〉
	21日(火)	iA0入試Ⅱ期1回目 インターナショナル・フィールドワーク海外研修〈8月25日(土)まで〉
	22日(水)	iA0入試Ⅱ期2回目 1年、専攻科成績報告書締切日
	23日(木)	おもちゃインストラクター養成講座1回目〈2回目24日(金)〉
	25日(土)	オープンキャンパス⑥
	26日(日)	2年夏期休業終了
	27日(月)	1年一般教養試験対策講座〈30日(木)まで〉 2年前期授業再開
9月	1日(土)	普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児) iA0Ⅲ期特別授業
	2日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	3日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、再試験発表
	4日(火)	専攻科後期授業開始
	5日(水)	1年前期再試験〈6日(木)まで〉、2年前期定期試験① 専攻科前期再試験〈7日(金)まで〉
	7日(金)	1年後期授業開始、2年前期定期試験②
	8日(土)	2年前期定期試験③、ミニオープンキャンパス⑤
	10日(月)	2年現場実習(保育所・児童福祉施設)〈9月27日(木)まで〉
	12日(水)	市内高校長との教育研究会
	15日(土)	iA0Ⅳ期10月特別授業
	21日(金)	2年成績報告書締切日
	22日(土)	iA0入試Ⅲ期1回目
	28日(金)	2年実習予備日
	29日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、iA0入試Ⅲ期2回目
10月	1日(月)	2年後期授業開始
	3日(水)	2年前期再試験〈5日(金)まで〉、専攻科実習連絡会
	6日(土)	ミニオープンキャンパス⑥
	13日(土)	iA0入試Ⅳ期10月
	15日(月)	召天者記念礼拝
	19日(金)	2018年度第3回サンクスギビングフェア
	22日(月)	専攻科ⅰ日程入試
	26日(金)	学生祭週間〈29日(月)まで〉
	27日(土)	いずみ祭、入試個別相談会〈28日(日)まで〉
11月	1日(木)	専攻科介護実習Ⅱ〈30日(金)まで〉
	10日(土)	入学者選考日[指定校、卒業生・在学生家族、キリスト者推薦、公募、専門高校]、専攻科A日程入試
	14日(水)	実習連絡会(保育所)、専攻科帰校日
	17日(土)	ミニオープンキャンパス⑦
	23日(金)	WEEKDAY CAMPUS VISIT③
	30日(金)	保育実習Ⅱ成績報告書締切日
12月	1日(土)	iA0入試Ⅳ期12月、専攻科B日程入試 1年生 神奈川県保育のつどい
	3日(月)	クリスマスツリー点火祭
	5日(水)	専攻科介護協学力評価テスト
	10日(月)	アドベント礼拝

12月	12日 (水)	実習連絡会 (児童福祉施設)
	14日 (金)	2018年度第4回クリスマスフェア
	15日 (土)	ミニオープンキャンパス⑧
	17日 (月)	クリスマス礼拝
	22日 (土)	冬期休業開始 (1年・2年:2019年1月7日 (月)まで、専攻科:2019年1月6日 (日)まで)
2019年	1月 6日 (日)	専攻科冬期休業終了
	7日 (月)	新年礼拝、1年・2年冬期休業終了 専攻科国家試験対策学内テスト (午後)
	8日 (火)	後期授業再開
	9日 (水)	1年後期授業終了
	10日 (木)	1年後期定期試験 (12日 (土)まで)
	12日 (土)	iA0入試Ⅳ期1月、社会人特別選抜入試、専攻科C日程入試
	15日 (火)	1年現場実習 (保育所/児童福祉施設) (1月30日 (水)まで)
	23日 (水)	1年成績報告書締切日 専攻科国家試験対策講座 (25日 (金)まで)
	28日 (月)	2年、専攻科後期終了感謝礼拝
2月	1日 (金)	2年後期授業終了
	2日 (土)	和泉プレカレッジ
	4日 (月)	1年後期再試験発表、実習授業 (1,2時限) 2年後期定期試験① (6日 (水)まで)
	5日 (火)	一般入試、専攻科D日程入試
	6日 (水)	1年実習授業 (1,2時限) 2年追再実習追加分 (幼稚園) (8日 (金)まで)
	8日 (金)	専攻科後期授業終了
	9日 (土)	専攻科後期定期試験 (12日 (火)、13日 (水)まで)
	12日 (火)	2年成績報告書締切日 1年現場実習 (児童福祉施設/保育所) (2月27日 (水)まで) 2年追再実習 (2月27日 (水)まで)
	13日 (水)	iA0入試Ⅳ期2月
	15日 (金)	専攻科成績報告書締切日
	18日 (月)	2年、専攻科後期再試験発表
	22日 (金)	2年、専攻科後期再試験
	28日 (木)	2年追再実習者再試験
3月	1日 (金)	大人向けコンサート
	4日 (月)	1年実習授業 (1時限)、1年後期再試験 (5日 (火)まで)
	11日 (月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝・修了証書授与式予行練習
	12日 (火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	13日 (水)	iA0入試Ⅳ期3月、専攻科E日程入試、FD研修会
	14日 (木)	SD研修会
	23日 (土)	オープンキャンパス⑦
	28日 (木)	おもちゃインストラクター養成講座 (29日 (金)まで)
(2) 実習		
2018年	6月 11日 (月)	～ 6月 29日 (金) 2年幼稚園
	6月 11日 (月)	～ 6月 18日 (月) 専攻科介護実習Ⅰ
	7月 30日 (月)	～ 8月 8日 (水) 専攻科介護実習Ⅰ (訪問介護)
	9月 10日 (月)	～ 9月 27日 (木) 2年保育所・児童福祉施設
	11月 1日 (木)	～ 11月 30日 (金) 専攻科介護実習Ⅱ
2019年	1月 15日 (火)	～ 1月 30日 (水) 1年保育所/児童福祉施設
	2月 6日 (火)	～ 2月 8日 (金) 2年追再実習追加分 (幼稚園)
	12日 (火)	～ 2月 27日 (水) 1年児童福祉施設/保育所、2年追再実習

(3) 2019 度 児童福祉学科入試日程

IA0 入試Ⅰ期

2018 年 6 月 1 日 (金) ～6 月 7 日 (木) 7 日間	特別授業①申込期間
6 月 16 日 (土)	特別授業①
2018 年 6 月 25 日 (月) ～7 月 5 日 (木) 11 日間	特別授業②申込期間
7 月 14 日 (土)	特別授業②
2018 年 7 月 18 日 (水) ～7 月 25 日 (水) 16 時 8 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1・2 回目試験申込期間
2018 年 8 月 4 日 (土) 午前・午後	1 回目試験
2018 年 8 月 6 日 (月) 午前・午後	2 回目試験
2018 年 8 月 8 日 (水)	出願許可判定教授会 (追認)
2018 年 8 月 8 日 (水)	出願許可通知発送日
2018 年 8 月 9 日 (木) ～8 月 22 日 (水) 14 日間	出願手続期間
2018 年 8 月 27 日 (月)	合否判定教授会 (追認)
2018 年 8 月 31 日 (金)	合格通知発送日
2018 年 9 月 1 日 (土) ～9 月 11 日 (火) 11 日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅱ期

2018 年 7 月 12 日 (木) ～7 月 19 日 (木) 8 日間	特別授業③申込期間
7 月 28 日 (土)	特別授業③
2018 年 7 月 20 日 (金) ～7 月 28 日 (土) 9 日間	特別授業④申込期間
8 月 7 日 (火)	特別授業④
2018 年 8 月 8 日 (水) ～8 月 13 日 (月) 16 時 6 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1 回目試験申込期間
2018 年 8 月 21 日 (火) 午前・午後	1 回目試験
2018 年 8 月 22 日 (水) 午前・午後	2 回目試験
2018 年 8 月 27 日 (月)	出願許可判定教授会 (追認)
2018 年 8 月 29 日 (水)	出願許可通知発送日
2018 年 8 月 30 日 (木) ～9 月 18 日 (火) 20 日間	出願手続期間
2018 年 9 月 26 日 (水)	合否判定教授会 (追認)
2018 年 9 月 27 日 (木)	合格通知発送日
2018 年 9 月 28 日 (金) ～10 月 10 日 (水) 13 日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅲ期

2018年8月20日(月)～8月24日(木) 5日間	特別授業⑤申込期間
9月1日(土)	特別授業⑤
2018年9月6日(木)～9月13日(木)16時 8日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1回目試験申込期間
2018年9月22日(土) 午前・午後	1回目試験
2018年9月6日(木)～9月20日(木)16時 15日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2回目試験申込期間
2018年9月29日(土) 午前・午後	2回目試験
2018年10月1日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2018年10月3日(水)	出願許可通知発送日
2018年10月4日(木)～10月11日(木) 8日間	出願手続期間
2018年10月15日(月)	合否判定教授会(追認)
2018年10月16日(火)	合格通知発送日
2018年10月17日(水)～10月26日(金) 10日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅳ期(10月)

2018年9月4日(火)～9月8日(土) 5日間	特別授業⑥申込期間
9月15日(土)	特別授業⑥
2018年9月25日(火)～10月5日(金) 11日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2018年10月13日(土) 午前	試験
2018年10月15日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2018年10月16日(火)	出願許可通知発送日
2018年10月17日(水)～10月20日(土) 4日間	出願手続期間
2018年10月24日(水)	合否判定教授会(追認)
2018年10月25日(木)	合格通知発送日
2018年10月26日(金)～11月5日(月) 11日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅳ期(12月)

2018年11月12日(月)～11月22日(木)16時 11日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2018年12月1日(土) 午前	試験
2018年12月3日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2018年12月4日(火)	出願許可通知発送日
2018年12月5日(水)～12月20日(木) 16日間	出願手続期間
2019年1月16日(水)	合否判定教授会(追認)
2019年1月17日(木)	合格通知発送日
2019年1月18日(金)～1月29日(火) 12日間	入学手続期間

IA0 入試Ⅳ期(1 月)

2018 年 12 月 17 日(月)～12 月 20 日(木)16 時 4 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2019 年 1 月 12 日(土) 午前	試 験
2019 年 1 月 16 日(水)	出願許可判定教授会(追認)
2019 年 1 月 17 日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2019 年 1 月 18 日(金)～1 月 24 日(木) 7 日間	出 願 手 続 期 間
2019 年 1 月 30 日(水)	合否判定教授会(追認)
2019 年 1 月 30 日(水)	合 格 通 知 発 送 日
2019 年 1 月 31 日(木)～2 月 12 日(火) 13 日間	入 学 手 続 期 間

IA0 入試Ⅳ期(2 月)

2019 年 1 月 28 日(月)～2 月 4 日(月)16 時 8 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2019 年 2 月 13 日(水) 午前	試 験
2019 年 2 月 13 日(水)	出願許可判定教授会(追認)
2019 年 2 月 14 日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2019 年 2 月 15 日(金)～2 月 18 日(月) 4 日間	出 願 手 続 期 間
2019 年 2 月 20 日(水)	合否判定教授会(追認)
2019 年 2 月 21 日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2019 年 2 月 22 日(金)～2 月 28 日(木) 7 日間	入 学 手 続 期 間

IA0 入試Ⅳ期(3 月)

2019 年 2 月 7 日(木)～3 月 5 日(火)16 時 27 日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試 験 申 込 期 間
2019 年 3 月 13 日(水) 午後	試 験
2019 年 3 月 13 日(水) 夕刻	出願許可判定教授会(追認)
2019 年 3 月 13 日(水)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2019 年 3 月 14 日(木)～3 月 15 日(金) 2 日間	出 願 手 続 期 間
2019 年 4 月 1 日(月)	合否判定教授会(追認)
2019 年 3 月 16 日(土)	合 格 通 知 発 送 日
2019 年 3 月 18 日(月)～3 月 22 日(金) 5 日間	入 学 手 続 期 間

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、公募推薦、専門高校推薦

2018 年 10 月 29 日(月)～11 月 1 日(木)16 時 4 日間 郵送は 30 日(火)消印有効。窓口は 1 日(木)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2018 年 11 月 10 日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2018 年 11 月 10 日(土)	合 否 判 定 教 授 会
2018 年 11 月 11 日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2018 年 11 月 12 日(月)～11 月 23 日(金) 12 日間	入 学 手 続 期 間

社会人特別選抜

2018年12月17日(月)～12月20日(木)16時 4日間 郵送は18日(火)消印有効。窓口は20日(木)16時まで	願 書 受 付 期 間
2019年1月12日(土) 午前	入 学 試 験 日
2019年1月16日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2019年1月16日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2019年1月17日(木)～1月28日(月) 12日間	入 学 手 続 期 間

一般入試

2019年1月10日(木)～1月25日(金)16時 16日間 郵送は23日(水)消印有効。窓口は25日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2019年2月5日(火) 午前	入 学 試 験 日
2019年2月5日(火)	合 否 判 定 教 授 会
2019年2月6日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2019年2月7日(木)～2月19日(火) 13日間	入 学 手 続 期 間

3. 専攻科介護福祉専攻

1 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築

介護福祉士国家試験対策

- ① 介護協学力評価テスト(12月)
- ② 学内国家試験対策(1月)
- ③ 学内国家試験対策(3日間)

2 実習の充実

- (1) 高齢者ふれあい体験の実施
- (2) 施設見学実習の実施
- (3) 学生個々に応じた実習指導の充実
- (4) 実習巡回指導の充実
- (5) 事例研究の指導
- (6) 事例研究発表会の開催
- (7) 事例集の作成
- (8) 実習連絡会の開催
- (9) 実習先などの高齢者・障がい施設へのボランティアの充実

3 就業力支援をする

- (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (3) 特別講義の実施

4 専攻科入学者数の増加を図る

- (1) 2年生に新年オリエンテーション時、専攻科の説明(学生へのアンケート調査も)
- (2) 1年生に入学オリエンテーション時、専攻科の説明(同時に1年次後期選択科目「障がい児・者の支援」の選択を勧める)
- (3) 専攻科の公開授業 前期1回(技術系)、後期1回(医療的ケア)を開催予定
- (4) 同窓会、父母会への働きかけ…既卒者で専攻科卒業後、活躍している方にインタビュー
- (5) 指定校10校訪問を次年度開始する予定

5 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
- (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
- (3) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、初任者研修の企画と会場提供
- (4) 青葉2丁目の町内会と専攻科学生の連携

6 卒業生への再教育支援の検討

2019 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程(学内、卒業見込者対象)

2018 年 10 月 1 日(月)～10 月 15 日(月)16 時 15 日間 郵送は 13 日(土)消印有効。窓口は 15 日(月)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2018 年 10 月 22 日(月) 17 時 30 分	入 学 試 験 日
2018 年 10 月 24 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2018 年 10 月 25 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2018 年 10 月 26 日(金)～11 月 5 日(月) 11 日間	入 学 手 続 期 間

A 日程

2018 年 10 月 29 日(月)～11 月 1 日(木)16 時 4 日間 郵送 31 日(水)消印有効。窓口は 1 日(木)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2018 年 11 月 10 日(土) 9 時 30 分	入 学 試 験 日
2018 年 11 月 10 日(土)	合 否 判 定 教 授 会
2018 年 11 月 11 日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2018 年 11 月 12 日(月)～11 月 22 日(木) 11 日間	入 学 手 続 期 間

B 日程

2018 年 11 月 12 日(月)～11 月 22 日(木)16 時 11 日間 郵送は 20 日(火)消印有効。窓口は 22 日(木)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2018 年 12 月 1 日(土)	入 学 試 験 日
2018 年 12 月 3 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2018 年 12 月 4 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2018 年 12 月 5 日(水)～12 月 20 日(木) 16 日間	入 学 手 続 期 間

C 日程

2019 年 12 月 17 日(月)～12 月 20 日(木)16 時 4 日間 郵送は 18 日(火)消印有効。窓口は 20 日(木)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2019 年 1 月 12 日(土)	入 学 試 験 日
2019 年 1 月 16 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2019 年 1 月 16 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2019 年 1 月 17 日(木)～1 月 28 日(月) 12 日間	入 学 手 続 期 間

D 日程

2019 年 1 月 10 日(木)～1 月 25 日(金)16 時 16 日間 郵送は 23 日(水)消印有効。窓口は 25 日(金)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2019 年 2 月 5 日(火)	入 学 試 験 日
2019 年 2 月 5 日(火)	合 否 判 定 教 授 会
2019 年 2 月 6 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2019 年 2 月 7 日(木)～2 月 19 日(火) 13 日間	入 学 手 続 期 間

E 日程

2019 年 2 月 7 日(木)～3 月 5 日(火)16 時 27 日間 郵送は 1 日(金)消印有効。窓口は 5 日(火)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2019 年 3 月 13 日(水)	入 学 試 験 日
2019 年 3 月 13 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2019 年 3 月 13 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2019 年 3 月 14 日(木)～3 月 19 日(火) 6 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年度聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年度聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2018 年度年間聖句「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」（聖書：ヨハネによる福音書第 3 章 34 節）」とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるように礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神に基づくスクールモットー「愛と奉仕」について礼拝を通し理解を深める。聖書のみ言葉を聴き、説教や奨励を通したメッセージにふれ、賛美と感謝を捧げて祈る礼拝を、毎週月曜日にチャペルアワーとして計画し実施する。前期・後期終了感謝礼拝、卒業・修了感謝礼拝を含め、年間 31 回のチャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 16 日）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 14 日）（キャリアデザインⅠ）
- 3) ペンテコステ礼拝（5 月 21 日）
- 3) 召天者記念礼拝（10 月 15 日）
- 4) クリスマスツリー点火祭（12 月 3 日）
- 5) クリスマス礼拝（12 月 17 日）（キャリアデザインⅠ）
- 6) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 11 日）

3-5 新入生研修会

4 月 6 日（金）に新入生研修会を実施する。宗教部オリエンテーションと礼拝、講演を通して、今後の学びの礎を培う。（講師：関野和寛氏）

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12 月に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファンด์・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンด์・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び児童福祉施設、関連団体等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F.)

聖書に親しむことを通して学生同士および教員との交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美の奉仕を行う。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での演奏の奉仕、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2018年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

全学的なチャペルアワーへの出席を促す。キリスト教に基づく建学の精神を理解できる機会として関心を持ち、参加しようと思える雰囲気を作ることを目指す。クラークホールの宗教的環境の素晴らしさを折々に伝える。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、委員の役割についても周知し、それぞれの役割を遂行するよう促していく。また、ポートフォリオのチャペルアワーシートの活用や、他教員の協力を得て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員会の活動は昨年と同様、年間5回の委員会を開催する。さらに、いずみ祭への展示発表参加、クリスマスツリー点火祭の企画運営など学生主体の活動になるよう支援する。

学生聖歌隊の活動が安定的に継続していくことをめざし、参加への呼びかけを年間通して行う。I. C. F. の参加を促すためにキリスト教推薦入学生など対象者への呼びかけを積極的に行い活動の充実を図る。

いずれの活動も神様の恵みのもとに、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教学校として、地域貢献を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 教授

【研究課題】 ・彫刻等の表現（形・素材）の可能性について

・日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】 ・造形表現の教材研究

【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

武 石 宣 子 特任教授

【研究課題】 ・リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏を含む)に関する研究

・音楽と身体表現を媒介とした脳育成法（乳幼児及び高齢者）

・プラスチック・アニメの研究（子どもの歌を題材、小道具を用いて）

・子どもの歌の簡易伴奏法の研究（グレード別アレンジ法）

・動きのイメージが広がる保育現場のための表現教育の研究

・子どもと音楽に関する教材研究

【教育課題】 ・リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ

・子どもと音楽の授業運営及びカリキュラムの工夫）

・親子リトミック（親子ふれあい遊び、子育て支援）の指導方法の充実

・教育法：《ダルクローズ・リトミック》（0歳～高齢者まで）

【所属学会等】

○大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会

○日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会

○日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会

○日本保育者養成教育学会 ○初年次教育学会

○日本レジャー・レクリエーション学会

○アクティビティ・サービス協議会 ○幼児音楽研究会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究

2. 幼児期における両義的認識の発達過程について

3. キリスト教保育の現状と課題

4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2015年まで）

5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）

6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）

7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題

8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題（テーマ「施設化する生」の継続的研究）

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
- ・「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【参加予定学会等】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会
- ・日本キリスト教教育学会
- ・子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・OMEF（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・幼児保育実践研究会
- ・キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
- ・キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・副委員長
- ・保育教諭養成課程研究会（文科省重点課程研究）
- ・全国保育士養成協議会（平成 29 年度第 56 回大会）実行委員

【地域貢献】

- ・キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
- ・保育所指定管理者選定・および第三者評価委員（東京・荒川区、座間市）

【その他委員会等】

- ・教務委員会の部長として、これまでの歴史を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業（保育実習・教育実習）の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。

また、開講授業全体を通じて、演習科目に限らず、講義における「アクティブラーニング」の可能性を求め、学生の豊かで創造的な学びを促進する提案を各授業担当者にしていく。

- ・教務委員会の下部委員会として、キャリアデザインセンター委員会・キャリアファイル運営委員会・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付

けを強化していく。またラーニングセンター開設に伴い組織的有機的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。

- ・キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献（連携）の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
- ・キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、キリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業におけるカリキュラム内容を工夫することに努める。
- ・和泉短期大学の独自の研究所設立が将来構想として望まれている。このことを念頭に置き、2016年度専任教員による「自主研究会」を企画し開催することができた。当初は2か月に1度の計画であったが、専任教員の学務が忙しく、3回の開催で終わった。2017年度は年度内5～6回開催を目指したが、下記教職課程の再課程認定に全教職員が時間や労力を傾ける必要が生じたため、6月に1度しか開催できなかった。2018年度も再課程認定に関する作業が継続されるが、教員の研究時間の確保等を含めた勤務体制・勤務内容の整備を図りつつ、教務委員会からも研究会の開催を提案していきたい。
- ・2018年4月～5月の幼稚園教諭教職課程の再課程認定に向けて、2017年度急きょ、教職課程ワーキンググループを立ち上げた。この中で申請手続きに必要な書類等を整えると共に、研究業績偏重の文科省の方針に合わせるため、「教職研究」と題した、研究誌を出版することを企画し、2018年3月発行を決定した。これにより、各教員の専門分野における研究以外に、各開講科目の授業研究を促進することになり、研究と教育の有機的な展開が図られることが期待される。再課程申請後も本ワーキンググループは10年先を見据えながら、本誌を作成しつつ、教員の研究業績・教育業績の積み上げを促進していく。

櫻井 奈津子 教授

【研究課題】 ・家庭養護推進の課題

「養育里親」「小規模住居型児童養育事業」を対象とした支援活動において、児童相談所、児童福祉施設、里親支援機関での支援活動に協力し、里親支援に携わるワーカーの課題を探る。

里親支援活動への協力を通して、里親のニーズを探る。

・要保護児童への自立支援

NP0神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業への参加・協力を通し、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、社会的養護の元で育つ子どもたちへの自立支援のあり方、具体的な実践について研究する。

【教育課題】 ・担当科目（児童家庭福祉・社会的養護の原理・子どもと暮らし・保育実習Ⅰ・保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅱ・教育実習・教育実習指導）の内容充実。

全体として、具体的に理解しやすい教材（パワーポイント、ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題提供により、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題についての理解を促してゆく。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、児童家庭福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していけるよう働きかけてゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考え、実践的な学びを深める。開講時期が後期であるため、クリスマス・正月に相応しい教材の作成に取り組む。また、近隣施設への見学も取り入れていく。選択科目であるため、履修者の状況・希望に応じた内容・進行を行う。

保育実習・教育実習とその指導科目では、実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。

担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに欠席が多いなど、単位修得・資格取得に課題を抱える学生への個別対応を丁寧に行う。

・教科書等教材作成

児童家庭福祉・社会的養護分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】

- ・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業平成30年度里親認定前研修 講師、相模原市養育里親更新研修 講師、里親支援専門相談員対象の研修活動 等）

- ・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。
- ・相模原市における児童福祉活動・子どもの権利擁護への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会・児童部会・虐待検証委員会等の委員会活動、養育里親更新研修講師、相模原市子どもの権利条例に基づく子どもの権利救済委員活動、相模原市児童相談所との連携等）
- ・横浜市における児童福祉活動への協力（横浜市児童福祉審議会委員）
- ・第三者委員活動
社会福祉法人あすはの会

【参加予定学会】 日本子ども家庭福祉学会（神奈川県立保健福祉大学）

鈴木 敏彦 教授

- 【研究課題】 ・戦前期「経済的保護」に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）
・福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（障害分野を中心に）
・障害者相談支援（障害ケアマネジメント、障害ソーシャルワーク）に関する研究

- 【教育課題】 ・短期大学における入学前教育・卒後教育のあり方について
・短期大学における退学防止に関する方策について
・児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
・保育ソーシャルワークのあり方について

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、社会保障法学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、日本高齢者虐待防止学会、日本障害者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

- ① 継続の研究課題である、「乳幼児の“あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」について、執筆したテキストブックの内容を実証する視点にたった親子支援と、この視点を踏まえた学生支援
- ② 現代生活にマッチした、乳幼児の運動あそびの普及・検証（理論と実際）
＊親子様の協力を得ながら研究を進める
＊文科省が提示した「幼児期運動指針」に基づいた啓蒙活動
（ア） 協力団体（予定）：冒険遊び場・保育所・幼稚園等
- ③ 幼少年体育指導士会の養成プログラムの実証・検証
- ④ 実習指導／保育・教職実践演習に係る課題とその対応

【教育課題】

- ① 保育内容『健康』：ア、今年度より 1 年生前期科目となる点を鑑み、学生の興味喚起のためトピックスを多く提示し、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促し、イメージ力を開発する イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ね、場合によっては前期の到達目標をスリム化する ウ、各回授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる エ、ポートフォリオの健康チェック欄と運動をはかる オ、半期を要し保育者の視点に気付く機会とする
- ② 乳幼児体育：ア、この授業の基盤である「ヒトが育ち、生きていくために、何故乳幼児期の“運動”が必要不可欠であること」の理論定着をはかる イ、我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこで

も、気軽に運動あそびの指導が出来る力の習得」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる視点で授業をおこなう。ウ、授業構成の前半は乳児対象・中盤以降は幼児対象とし、仕上げには、部分指導案や簡単な年間プログラム作成もおこなう。また、各回に簡単な実技課題を課し自己肯定観の定着を促す。エ、日本発育発達学会が設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の内容や、文部科学省が作成した幼児期運動指針も取り入れながら、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める

- ③ 実習指導／グループ担任：生活全般や現場実習に対して強い不安感や困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の気持ちを汲み取る努力をする。自身の重要課題として、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身のストレスを上手くコントロールする術の習得し、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援に努める。そして、新1年生へのサポーターとして、新2年生の力も活用し、2年生の一層の力も育てる。実習の合同授業を通し、心身ともに充実した生活を営める大人になるようなサポートに努めたい。
- ④ 保育・教育実践演習：担当6年目となる中、5名の授業担当者のメンバーの特徴が生かせるように随時授業調整を実施しながら授業を展開する。引き続き、社会人として保育者として巣立っていく学生に対する多方面の就業力支援をおこなう。

【主な社会活動】

- ・「日本体育学会」平成27・28／29・30年度代議員（専門領域選出） *専門領域は、「発育発達」領域
- ・「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
- ・「神奈川県相模原市中央区区民会議」議長
- ・「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・一般社団法人 幼少年体育指導士会 理事（日本発育発達学会認定）
- ・「社会福祉法人 歩育の会」 理事
- ・「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事

【参加学会（予定）】

- ・ 日本保育学会（5月）
- ・ 日本小児保健学会（6月）
- ・ 日本体育学会（9月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・ 日本発育発達学会（3月）

大 下 聖 治 教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究
- ④ 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的にに関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
- ② NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進
- ③ 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員
苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

片 山 知 子 教授

【研究課題】

1) キリスト教に基づく保育の考察

- ① キリスト教保育の今日的課題と展望：一般社団法人キリスト教保育連盟の活動に参加し引き続き継続する。
- ② 保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築：学生の実態に配慮した授業の工夫に努め、引き続き継続する
- ③ キリスト教保育の理念と保育実践の検証：黒田成子のキリスト教保育関係の資料を収集し、論文にまとめる(継続)

2) 持続可能な発展 (ESD) の乳幼児教育

文科省科研費による共同研究のまとめとして出版に取り組む
『持続可能な社会を創る保育実践—乳幼児期の ESD』

3) 子育て支援のあり方

- ① 和泉短期大学での子育て支援を通してその意義を継続検証する：2018年3月和泉短期大学紀要にて和泉短期大学子育て支援に関する共同研究発表。
- ② 地域における子育て支援の検証：相模原市における子ども子育て会議に副会長として参加し継続する。相模原市の保育利用相談事業の調査報告を2018年3月和泉短期大学紀要

にて発表(2017 年度和泉特別研究を受ける)

【教育課題】

- 1) 担当各教科において学生のニーズに沿った指導およびアクティブラーニングでの工夫に取り組む
- 2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら保育、福祉の専門職への学びができるよう援助する
- 3) 学生のキリスト教活動への関心をはかる

【学会参加予定】

・日本保育学会

(5 月 12 日-13 日 仙台市宮城学院女子大学開催：研究論文ポスター発表で参加)

・ OMEP 日本委員会総会、

(OMEP 日本委員会個人会員および団体会員理事)

・日本乳幼児教育学会、キリスト教教育学会

・一般社団法人キリスト教保育連盟 夏期講習会

(7 月 25 日-27 日 東京にて開催、理事長として参加)

【地域・社会貢献】

・相模原市子ども・子育て会議副会長

・一般社団法人キリスト教保育連盟理事長

・キリスト教保育連盟神奈川部会代議員、他各部会加盟園での研修講師協力

・横浜市幼稚園協会加盟園等での研修協力および日中友好保育交流への協力

・相模原市中央区水郷田名の友愛保育園でキリスト教保育について園内研修

西 田 恵一郎 准教授・チャプレン

【研究活動】

1. 人間の学としての神学を求めて

相互愛 ― 奥村一郎神父の後を追いつつ ―、学生がいかにして保育・教育・福祉に於ける召命への使命感を知るか。

2. 本学での 2 年間で、学生におけるキリスト教に対する感じ方がどのように変化したか
3. 近隣教会との連携を図る中で、キリスト教学校と教会のそれぞれの課題を探る
4. 小規模教会や無牧教会における教会成長とは何か

【教育課題】

1. チャペルアワーの充実を図る。スクールモットーである「愛と奉仕」に対する理解を一層深める。TP0 をわきまえ、場や時に相応しい態度をチャペルへの出席を通して身に付ける。
2. 「キリスト教概論」が自分と向き合う時となり、自己を発見しながら神との出会いに繋がるように。更に保育・教育・福祉の仕事は神からの委託であると気づくことができるように。
3. 「英語コミュニケーションⅡ」を通して、英語による日常のコミュニケーション能力 ― 特に保育の現場における ― を身に付けると同時に、英語を学ぶ際に必然的に伴ってくるキリスト教の背景や影響を知る。
4. 宗教活動(ICF、聖歌隊、ハンドベルクワイア)を含むすべての活動を通して愛し愛される「人」となり、愛から生まれた奉仕を実践できるような活動とする。

5. カウンセリング業務（学生相談室）を通して学生の学びを支援し、人間関係の問題の解決に助力する。

【参加予定学会等】

- ・“The American Association for Pastoral Counselors”（アメリカ牧会カウンセラー協会）
- ・“The National Christian Counseling Association”（全米キリスト教カウンセリング協会）
- ・“National Association of College and University Chaplains”（全米大学チャプレン協会）
- ・日本キリスト教教育学会
- ・日本スピリチュアルケア学会

【地域貢献】

- ・「相模原市総合計画審議会」委員
- ・和泉保育園での聖書のお話し。実習先の幼稚園・保育園・施設などの訪問
- ・日本基督教団相模原教会協力牧師
- ・日本基督教団神奈川地区教務教師

【その他委員会等】

- ・学生部健康管理センターのカウンセラーとして相談業務を担当。相談業務は学生間の人間関係、課題の取り組みに対する悩み、実習での問題など多岐に及ぶ場合がある。

山 本 美貴子 准教授

- 【研究課題】 ・2019 年度新カリキュラム構築に伴い、「保育内容 表現」「保育の指導法 音楽表現」「子どもと音楽（仮）」等の授業内容と、各科目の連携方法などについて、担当する教員による「授業内容研究」を試みたい
- ・和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表現の課題について、学生支援ユニット実施する学生へのアンケート（2014 年度～2016 年度）結果から傾向を調査、保育における保育者の音楽実践や、養成校での保育者の音楽性の育成について新しい方向性を提言したい。
 - ・子どもの表現を育むため「保育者研修」について
園内研修内容を省察し、子どもとの生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための 保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る
 - ・自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
- 【教育課題】 ・「保育音楽」保育内容「表現」の授業内容と方法について
2018 年 4 月～新幼稚園教育要領・新保育所保育指針の実施を好機に、あらためて子どもの感性や表現・豊かな音楽性を理解し、生活や遊びの中で、また保育者や友達との関りを通して育む保育方法を実践する専門性を育てる授業内容を探る。2017 年度までから引き続き、養成校の授業実践として未だ課題の多い創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸にして、個々の学生の知識と個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により各学生が自己の学習段階・学習成果を把握する方法を模索したい。

- ・保育内容「表現」の授業内容と方法について

非常勤担当教員との協力により、毎年度の省察・当学年の学生の傾向に基づいた、教材研究・授業形態などの細かい工夫を積み重ねて、子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する充実した授業実践の手応えを得ている。2016年度は時間割の変更により利用教室・教材ワゴンなどの使用状況の改善が見込まれるので、更に課題設定・指導方法の改善を試みる。

- ・「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について

2017年度は2年生7名・専攻科生1名活動した。例年にも増して活動への積極的な参加・主体的な運営が充実した活動となり、特にクリスマス関連行事への意欲が高く、大きな手応えを得られた。一方で、ほとんど毎週のオフィスアワーに各種委員会・学生向け説明会など開催される為、全員揃って参加することがなく、クリスマス前1カ月半は金曜2・3限に教員が待機して授業がない学生との個別的な練習を要する等、練習方法や隊員への連絡手段・練習時間に負担が大きかった。

年間を通して1年生隊員の勧誘を試みたが、入会希望者を得られない状況が続いた。宗教委員会教員各位の協力を得られ、クリスマスツリー点火祭・礼拝に向けて、不定期な参加者6名を得られたが、引き続き卒業・入学関連の行事について参加者を求め、引き続き、準備・働きかけの工夫改善を要する。新担当者への引継ぎも視野に、聖歌隊の活動内容や位置づけに新しい試みを検討する。

- ・グループ運営の充実と 個別学生指導について

（2年生）実習・進路相談について、相談可能な日時を予め提示しメールと電話を公開して連絡しやすい環境を整えることで、実習・ボランティア業務によるグループ指導時間の減少をカバーするように努め、一定の効果を得到了。また、2年生進級後の学生の成長が大きく、実習を行った学生のうち、実習事前・途中中止者0名で終了することが出来た。さらに1年次に資格・免許取得放棄した学生2名が途中で退学することなく、卒業を目指しグループの学生と共に充実した学生生活を最後まで楽しむ姿を見られたことは大きな手ごたえとなったが、保証人との関りを含め、課題となるグループ学生の指導の在り方、地域社会に貢献する学びの充実を支援する方法を模索したい。

（1年生）入学後、学生生活が極端に不安定な学生が少ないことが特徴で、特に大きな出来事もなく後期を迎えたが、無難に無理なく取り組む学生が多く、積極的に夢中で学びに取り組む様子が見られないことが気掛かりであった。

実習指導については、共通教材・カルテファイル・Lグループ用補助教材（プリント・学習段階の設定）を活用、出席率も高く事前学習に大きな課題はなかったが、実習開始後は力をセーブするタイプの学生ほど実践現場での苦労や不安が大きく、個別的な支援を要する学生が多かった。訪問指導・電

話面談やメールでの働き掛けによる支援により一定の効果を得られたと感じるが、進路選択に向かう2年次は引き続き改善を要すると考える

【学会参加予定】 日本保育学会(5月) 日本乳幼児教育学会(11月) 日本音楽教育学会(11月)

横 川 剛 毅 准教授

【研究課題】 キリスト教社会福祉の歴史を踏まえた今日の教会と福祉

【教育課題】 ・より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
・施設への関心を喚起し、社会福祉施設への就職者を増加させる。

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会

矢 野 由佳子 准教授

【研究課題】 ・保育者の情緒体験とその対処に関する調査研究

・乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査

【教育課題】 ・子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成

・心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】 日本心理臨床学会 日本発達心理学会 他

松 山 洋 平 准教授

【研究課題】

- ・「保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方」
- ・「保育の質向上を支える研修と保育者の変容の過程に関する研究」
- ・「保育者の子どもを理解することの深化についての研究」

【教育課題】

- ・担当科目「保育・教職実践演習」「保育方法」「保育課程論」において、今までの教材研究を精査し、より学生の実態を捉えつつ、これからの保育に資する内容の充実を図る。
- ・実習先との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組みを行う。
- ・サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組みを行う。

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会

【社会的活動】

- ・Will とともに語ろう（和泉短期大学卒業生研究会）
- ・幼稚園教諭免許状更新講習講師（神奈川県幼稚園協会）
- ・相模原市幼稚園協会研修部会講師
- ・荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
- ・荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
- ・ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
- ・鉄道弘済会研修会講師
- ・横浜市主任リーダー研修会講師

- ・横浜市幼稚園協会旭区支部研究会講師
- ・子どもと保育総合研究所 所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木登戸園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木鷺沼園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木梶ヶ谷園 要望等解決審査委員（第三者委員）

平 沼 晶 子 准教授

【研究課題】

「保育者が行う在園児の保護者支援における機能向上」

保育者を対象に調査を行い、在園児の保護者支援の現状を捉えるとともに、保育者が担う子育て支援における課題を検討する。

【教育課題】

- ・担当科目「保育相談支援」「保育の心理学Ⅱ」「保育内容 人間関係」「家庭支援論」において、学生の学習意欲を高めるよう授業内容および教材を工夫し、よりよい教育をめざす。
- ・研究および臨床活動を通して得た知見を授業に還元し、学生に実践的な学びを提供する。

【学会参加予定】

- ・日本子育て学会
- ・日本発達心理学会

【社会的活動】

- ・生涯発達研究教育センター研究員
- ・保育者へのコンサルテーション
- ・乳幼児をもつ親を対象とした子育てセミナー講師

中 野 陽 子 准教授

【研究課題】

- ・知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
- ・障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

- ・さまざまな相談援助ができる保育者の養成
- ・特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
- ・福祉施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく

【学会参加予定】

- ・日本社会福祉学会
- ・社会福祉教育セミナー
- ・日本発達障害学会
- ・日本保育学会
- ・全国保育士養成セミナー

【社会的活動】

- ・相模原市民オンブズマン
- ・県立さがみ緑風園第三者委員

- ・社会福祉法人ウィズ町田評議員
- ・社会福祉法人つぼみの家監事

久保 小枝子 専任講師

【研究課題】

- ・子ども理解と保育者の援助の在り方を事例から考察し研究する。
- ・保育の資質向上につながる記録のあり方を、事例を通して考察する。
- ・子育て支援「はっぴい」における学生の学びについての研究をする。
- ・初めてキリスト教に出会う学生の興味とその広がりを調査、研究する。

【教育課題】

- ・一人ひとりの学生が保育への学びの意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
- ・「言語表現」「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために幼稚園・保育園の事例研究、教材研究をする。保育現場での資料集め、見学、インタビューを中心に行い、理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
- ・担任グループの学生の学生生活の充実と保育技術習得の支援

【学会等の参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本キリスト教教育学会
- ・日本保育者養成教育学会
- ・キリスト教保育者協議会
- ・OMEF（世界幼児教育・保育機構）日本委員会

【社会的活動】

- ・2005年～キリスト教保育連盟 月刊誌『キリスト教保育』コメントの会 委員（現職）
- ・2007年～思いやり研究会 研究員（2013年まで）
- ・2013年～幼児保育実践研究会 会員（2016年まで）
- ・2015年～キリスト教保育連盟カリキュラム委員会委員（3.4.5歳児カリキュラム作成）（現職）
- ・2016年～和泉短期大学子育て支援プログラム委員・子育てサロン「はっぴい」企画運営（現職）
- ・2016年 相模原市こども・若者未来局 相模原市民間保育所等整備に係る運営法人選考委員会 委員
- ・2017年7月 一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会教員免許状更新講習講師
- ・2017年9月 平成29年度全国保育士養成セミナー分科会記録係
- ・2018年10月 相模原市こども・若者未来局主催 相模原市保育施設職員研修講師
- ・2018年～ 横浜YMCA県内13の保育園スーパーバイザー
- ・2018年～ 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会 委員
- ・2018年5月 キリスト教保育連盟 関東部会埼玉地区 新任研修会 講師
- ・2018年7月 一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会 教員免許状更新講習講師
- ・2018年 相模原市こども・若者未来局主催 保育者研修会 講師（年3回）

八 代 陽 子 専任講師

【研究課題】

- ・ 保育者の成長にかかわる人間関係の研究
「保育者の困難の変化のプロセス」と、「保育者を取り巻く人間関係」に焦点を当て、保育者の記録とインタビューを縦断的に行い、保育者の成長と人間関係との関連を探る。
- ・ 保育者養成における学生生活と well-being の影響
学生生活のどのような時に well-being が向上したり低下したりするのか、アンケート調査により探る。

【教育課題】

- ・ 学生の主体的な学びを高めるための授業研究
「子どもの保健Ⅰ」での学びを踏まえ、「子どもの保健Ⅱ」では、学生が学びに対する受け身のすることなく、学生自ら考え、実践的に学べるよう、ストーリー学習を取り入れる。
「学生の学びの内容」、「授業への取り組みに関する意識」、「授業プロセス」を学生へのアンケート調査等により検討し、さらなる授業改善を目指す。

【所属学会等】

- 2008 年 11 月 日本医療保育学会
- 2011 年 4 月 日本保育学会
- 2012 年 7 月 日本乳幼児教育学会
- 2015 年 7 月 日本保育園保育保健協議会
- 2016 年 9 月 日本保育者養成教育学会

上田 よう子 助教

【研究課題】

- 「学生の自己肯定感を育む保育内容「言葉」における授業研究」
- 「保護者の自己効力感を育む子育て支援のあり方に関する研究」

【教育課題】

- ・ 「保育内容『言葉』」と「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」の授業において、CDC などの場所を使用し、具体的な場面を想定しながら、学生たちにより分かりやすいような教材や事例を通して授業を展開する。
- ・ グループ・個人の発表などによりアクティブラーニングやフィードバックを通じて、保育や実践、実習への意欲を高められるように工夫していく。
- ・ 実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容を簡潔、迅速に行えるように精査し、学生の支援に取り組む。

【学会参加予定】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 全国保育士養成協議会研究大会

【社会的活動】

- ・ 一般財団法人若葉台まちづくりセンター講師
- ・ 若葉台子育てささえあい連絡会理事

- ・子育てサロン「ほっとままサロン」講師

専攻科介護福祉専攻

佐久間 志保子 准教授

- 【研究活動】
 - ・介護職に対する口腔ケアの意識調査
 - ・災害に関する小規模高齢者・障害者施設の取組み
- 【学会参加予定】
 - ・日本在宅ケア学会
 - ・日本社会福祉学会
 - ・日本介護福祉教育学会
 - ・日本環境感染学会
 - ・日本認知症ケア学会
 - ・日本看護科学学会

佐 藤 美 紀 専任講師

- 【研究活動】
 - ・学生の求める実習指導の在り方についての再検討
 - ・ユニットケアにおける移乗・移動介助の現状
- 【学会参加予定】
 - ・日本介護福祉学会
 - ・認知症ケア学会

下 西 潤 子 特任講師

- 【研究課題】
 - ・在宅ケアを支えるために求められること
 - ・社会福祉施設でケアを担う人たちのストレス要因と解消法
 - ・介護福祉士養成校の課題
 - ・介護福祉士養成校の展望
- 【教育課題】
 - ・「介護福祉士養成教育」を支える学生と教員の思考過程
～楽しむ授業・教材の開発～
- 【学会参加予定】
 - ・日本介護福祉教育学会
 - ・日本老年行動科学会
 - ・日本介護福祉学会
 - ・日本難病看護学会
 - ・日本社会福祉学会
 - ・日本認知症ケア学会
 - ・日本ソーシャルワーカー協会
- 【社会的活動】
 - ・障がい者グループホームにおける健康管理

- ・あさひ社会福祉法人の職員研修
- ・在宅ケアを支える介護教室

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2018年度は下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①学修時間の促進と強化に伴う学修環境の整備と組織的運営の構造整備・改革
（時間割構成 5 時限化の安定的運用と学修促進との関連省察、及び昼休みの運用再開）
- ②教育内容の体系化の充実（3 ポリシーに沿ったシラバス作成要綱の作成と運用）
- ③新たな教育方法の導入にむけた検討
 - ・アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL）等、
 - ・授業担当者に対する促進 Google Class への転換と活用
 - ・ラーニングセンターWILL の運営管理）
 - ・オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価
（非常勤講師のオフィスアワーの明確化）
- ④実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討
（「実習・ボランティアセンター委員会」を業務整理と共に「実習サポート委員会」改名とし、この委員会の業務を実習サポートセンターが行い、実習教育との協働を図る）
- ⑤ハード面における環境整備の提案
 - ・教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学修室（カフェ）化）
 - ・IT 教育環境の整備（学生ホール・及び IT 関連授業の教室環境整備）
- ⑥障がい、その他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討
（「障がい学生修学支援委員会」との協働）2016 年度生対象者なし、2017 年度生調査必要
また 2018 年度生に関しては、2017 年度第 4 回入学前教育（3 月）に行う予定
→クラス編成に配慮
- ⑦CDC、LC “Will”、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認
（特に Google Class への転換とスムーズな運営のための人材確保）

（2）学びの組織的支援

- ①ポートフォリオの更新と取り組み内容・方法の工夫（「ポートフォリオ委員会」との協働）
- ②初年次教育のあり方の検討
（短期大学における初年次教育、保育者養成校における初年次教育）
- ③中途退学防止に向けた取り組みの充実（「離学者検討委員会」との協働）
- ④キャリアデザインセンター・ラーニングセンター支援者を中心とする
「保育者を目指す学びへの支援」に関する検討（「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ⑤入学前教育の内容更新と充実（方法・内容等の再検討）
- ⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映
- ⑦学びの組織的支援充実のための構造整備（教務委員会下部組織の整備と確認）

- ⑧学習時間の保障を軸に、シラバス作成要項（方針）を綿密に作成し、講義・演習の組織的な運用を目指す。

(3) 学修の評価

- ①アセスメントポリシー策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討
- ③自主的な学習の評価に関する検討
- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

- ①学校間連携の充実（保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等）
- ②高大連携プログラムの充実（聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等）
- ③産官学連携のあり方の検討（日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、相模原市高齢者施設協議会 等）
- ④地域連携のあり方の検討（地域連携推進委員会と協働）
- ⑤専門職団体等との連携の充実（キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働によるキャリアパス＜キャリアアップ講習＞の具体的構築 下記（5）－①と関連）
- ⑥保証人との連携の充実（保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携）

(5) 生涯教育

- ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進（リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣等） IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
- ②大学公開講座の充実（相模原市との共催 等）

(6) キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ②資格取得支援（保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他）
- ③「保育ふれあい体験（保育園）」・「福祉ふれあい体験」のカリキュラム化と体験の充実化
「幼稚園ふれあい体験」の新設とカリキュラム化

(7) FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教員参加のFD研修会開催（「ファカルティディベロップメント委員会」との協働）
- ⑤学生FD委員会活動への支援

(8) 教員の交流と研究活動の支援

- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
- ②教員の研究活動の推進
(研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等)
- ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討

(9) 情報公開・情報収集の推進

- ①自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）
- ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）
- ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）

(10) 教職課程ワーキンググループ（WG）の設置と運営（2017年度10月～継続課題）

- ①教職課程再課程（幼稚園教諭）認定において記される新課程を、本学のカリキュラムポリシーに照合し、再構築
- ②講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を兼ね、論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。
- ③新課程に関する手続き上の情報収集と申請手続き、及び交渉
- ④教職課程に関わる教員の業績管理・促進

学生委員会（学生部長 大下 聖治）

- (1) 学生支援におけるグループアドバイザーとの連携強化を図る。
- (2) 学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- (3) 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- (4) キャリアデザインⅠ（学生生活支援）・キャリアデザインⅡ（進路支援）の充実を図る。
- (5) 学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- (6) 学生の賞罰に関すること。
- (7) 学友会活動（いずみ祭・卒業パーティー委員会等）を支援する。
- (8) 学生の課外活動を支援する。
- (9) 健康管理センターを充実させる。

入試広報委員会（入試広報部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係

- ①学園報（izumi NEWS）の発行
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）、オープンキャンパスの開催及び充実のための検討
- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑥公開授業（WEEKDAY CAMPUS VISIT）の開催及び充実のための検討
- ⑦公開授業（市内小学校・中学校・高校教員対象）の開催及び充実のための検討

- ⑧和泉プレカレッジ（高校1・2年生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑨WEB情報（ホームページ、ライン、フェイスブック、インスタグラム）の充実のための検討
- ⑩教職員説明会の開催
- ⑪同窓会との交流
- ⑫その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①各入試（iA0入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③各大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 山本 美貴子）

1. 実習に関する業務

(1) 実習先施設の選定・連絡・調整

- ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ② 実習指導連絡会の実施（実習種別年3回）
- ③ 「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付（年1回）

(2) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援

- ① 授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
- ② 実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
- ③ 実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
- ④ 実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施。
- ⑤ 「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット等作成等）

(3) 実習実施に関わる業務

- ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
- ② 上記①の実施期間の一本化への努力（1月期：保育所、2月期：施設）
- ③ 登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
- ④ 学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期等）
- ⑤ 実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続き等の支援（各種フォーマットの作成、配布）
- ⑥ 細菌検査・予防接種抗体検査等に関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
- ⑦ 学生健康管理センターとの連携（専門職としての健康等に関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解等）
- ⑧ 巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表。
- ⑨ 巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き。

- ⑩ 実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
- ⑪ 学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理。
- ⑫ 実習先パンフレット等関連資料の収集と学生への提供
- (4) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ① 実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ② 「実習ルールブック」作成、配布。
 - ③ 実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④ 実習評価票、出勤票の作成、配布。
 - ⑤ 「実習ステップブック」改訂準備（名称・手続きの変更、実習の目標・評価票の変更等）
- (5) 学生の個別的支援を要する事例について、実習指導授業担当教員との連携・協議等。

2. ボランティア活動

- (1) 実習指導授業内で「ボランティア活動」に関する授業を実施
- (2) 地域連携推進センター委員会への引継ぎ・協力
- (3) ボランティア募集に関するパンフレット掲示場所の提供

3. 2018 年度の重点課題

- (1) 実習・ボランティアセンター及び委員会の名称変更→実習サポートセンター・実習サポート委員会
- (2) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）
- (3) CDC 委員会、ポートフォリオ WG との連携による実習指導内容の精査・充実。
- (4) 2018 年度も実習サポートセンター内の明朗な協力体制・支援の質を維持、更に職務分掌・作業や連絡時期と方法の工夫を重ね、更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (5) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (6) 学生・実習先等の情報を護る観点から、情報公開の方法や時期について検討、より確実な方法を探る。
- (7) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話等）。
- (8) 引き続き、各実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (9) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に大きく関わる「実習の記録」（日誌）の作成について、更に、授業「保育課程論」「障がい児保育Ⅰ」指導担当教員との連携を図り指導内容を向上する。
- (10) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2 年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また LC・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。
- (11) 新「実習評価票」の活用による実習先との一層の連携を図り、実習の事前・実習中・事後学習に資する実習評価・質の高い実習の実施を目指す。

- (12) 2018 年度、地域連携推進委員会へのボランティア関連業務の円滑な移行の為に、連絡・相談・連携を図る。

地域連携推進センター委員会（委員長 櫻井 奈津子）

本委員会のもとに以下の委員会を置き、それぞれのワーキンググループを中心に活動を行う。

【図書委員会】（委員長 櫻井奈津子）

1. 研究紀要発行に関する検討
 - ①査読付き論文を含む研究紀要の発行
 - ②研究紀要の電子化の検討
 - ③「和泉短期大学研究紀要 原稿作成の手引き」の改定
2. 特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
3. 蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
4. 図書館利用者サービスの向上
 - ①業務用パソコンの安定稼動と迅速なデータ処理
 - ②A V ルーム・共同研究室の充実
5. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ②図書未返却者への督促強化
6. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
7. 図書館サポーター活動の充実
 - ①選書ツアー
 - ②POP 製作・展示
 - ③学生からの意見・提案聴取
8. 図書館主宰イベントの実施
 - ①折り紙コンテスト
 - ②クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
9. 図書館ホームページの充実
10. ラーニングセンターwill との連携
11. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加

【地域連携推進委員会】（委員長 井狩芳子）

1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供に関すること。
 - ① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援
 - ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
 - ・ボランティア活動届の配付・受付
 - ② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募

- ・学生に対する本制度の周知
- ・相模原市への推薦業務（年度末）
- 2. オレンジリボン活動（相模原市包括連携協定校事業関連）
 - ①年間スケジュールの立案と把握
 - ②各重点行事の充実
- 3. 第6回まちづくりフェスタ参加
- 4. さがまちコンソーシアム関連
 - ①平成30年度「市民大学」実施状況についての把握
 - ②コンソーシアム公開講座（さがまちカレッジの内容検討と実務）
 - ③その他
- 5. 関連事項・ニュース等の把握・広報

【子育て支援プログラム委員会】（委員長 片山知子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月1回、土曜日）
 - ①子育て家族への支援
 - 安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
 - 保育支援者によるサポート体制
 - ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）
 - ②学生に実践的な学びの場を提供する
 - 乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供
 - 学生主体の企画を発表する場の提供
 - 事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供
 - 参加学生との交流・実践的研修の提供
 - ③入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する
 - ④卒業生との連携
 - 活動時のボランティア受け入れ
 - 子育て世代の親子参加の促進
 - 同窓会広報活動への協力
 - ⑤その他
 - 参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る
2. CDCの整備及び子育てひろば「すまいいい」（施設開放：毎週木曜日の実施）との連携
 - ①地域親子にCDCを遊び場として開放する
 - 保育環境として相応しい維持整備を継続する
 - ②学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備
 - ③保護者からの相談に対して、情報提供（専門機関の紹介も含む）や子育てのアイデア・季節に応じた話題の提供を行う
 - ④子育て講演会や保護者間の交流等の企画
3. 子育て支援プログラムに関する継続的な検証と報告を行う
 - ①「はっぴい」の活動を通しての質の高い子育て支援のあり方を継続的に提案する

- ②「いっしょに子育て」の相模原市地域協働事業での実績も活用し継続的な地域連携、「はっぴい」「すまいりい」の総合的な持続可能性を考える

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2018年	4月中旬発行予定
・奨学金リーフレット	2018年	4月中旬発行予定
・高校1,2年生向けリーフレット	2018年	4月中旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2018年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2018年	4月下旬発送予定
・izumi NEWS 37号	2018年	5月下旬発行予定
" 38号	2018年	8月上旬発行予定
" 39号	2018年	12月上旬発行予定
" 40号	2019年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2018年	7月上旬発送予定
・ " ②(学園祭)	2018年	9月下旬 "
・ " ③(クリスマスカード)	2018年	12月上旬 "
・ " ③(3月オープンキャンパス)	2019年	2月上旬 "

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・高等学校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・和泉プレカレッジ（2月高校1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・オープンキャンパス・個別相談会

オープンキャンパス	第1回	4月21日（土）
同	第2回	5月27日（日）
同	第3回	6月16日（土）
同	第4回	7月14日（土）
同	第5回	7月28日（土）
同	第6回	8月25日（土）
同	第7回	3月23日（土）
個別相談会		10月27日（土）・28日（日）※学園祭

・ミニオープンキャンパス

ミニオープンキャンパス	第1回	5月12日（土）
同	第2回	6月9日（土）
同	第3回	6月30日（土）
同	第4回	8月7日（土）
同	第5回	9月8日（土）
同	第6回	10月6日（土）

同	第 7 回	11 月 17 日 (土)
同	第 8 回	12 月 15 日 (土)

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」(通年)
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業(随時)
- ・かながわ短大フェア(神奈川県私立短期大学協会)(4月)
- ・進学相談会(会場形式)(随時)
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」(かながわ大学生涯学習推進協議会)(7月・9月)

(4) 公開講座

- ・市民大学(相模原市・座間市と共催)前期・後期2講座
- ・さがまちカレッジ「中学生対象講座」(12月)
- ・WEEKDAY CAMPUS VISIT(授業参加型体験プログラム)(7月・11月)

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2018 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
(株)廣告社	本学ホームページ公式サイト動画制作	1 年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサブリ進路/在学生キャンパスライフレポート (インターネット商品)	1 年間
	進学事典	1 月
	進学事典	4 月
キッズコーポレーション(株)	学校ガイド進学ナビ (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典	4 月
(株)昭栄広報	進路ノート (大学・短期大学編)	4 月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	4 月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4 月
(株)ディスコ	LINE	1 年間
(株)育伸	ガイドブック TRI-ANGLE (インターネット含む)	4 月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4 月
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4 月
特定非営利法人 NEWVERY	授業体験型学習	1 年間
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	〃 元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1 月
(株)ショッパー社	新年名刺広告	1 月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月

神奈川中央交通(株)	バス停正式名称保守管理	1 年間
廣告社(株)	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	1 年間

2018(平成30)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

(教員関係経費)

金額

11,826

研究費

児童福祉学科

単価

教員数

○ 教授	270	×	8	2,160
○ 特任教授	270	×	1	270
○ 准教授	260	×	6	1,560
○ 専任講師	250	×	2	500
○ 助教	50	×	1	50
○ 助手	50	×	1	50
			19	計 4,590

専攻科

単価

○ 准教授	260	×	2	520
○ 特任専任講師	250	×	1	250
			3	計 770

22名

計 (5,360)

学長裁量費

- 和泉特別研究費
- 大学教育改革プログラム

1,300

計 1,300

合計

6,660

教材費

- 専任・非常勤教員

2,966

旅費交通費

- 学会参加 1回 @50限度 1人 2回まで

22名

2,200

(施設)

121,762

内容

設置場所

金額

土地	○ 土地(1,536㎡)<第2号基本金>	スクールバス駐車場	2号館隣地	繰延 ①	100,000
	2017年度から繰り延べ				
建物	○ 天井耐震補強工事		1号館	②	18,476
	○ 配電盤ブレーカー取替、コンデンサー取替	受変電設備	1号館	取替更新	3,117
	○ 高圧気中負荷開閉器	受変電設備	2号館	取替更新	169
				計 (	21,762)

(設備)

内容

個数

設置場所

6,583

教育研究用

機器備品

- ノートパソコン

33

ラーニングセンター

新規 ③

5,277

- ノートパソコン収納棚

2

新規 ③

266

計 (5,543)

図書

- 児童福祉学科 1,000 専攻科 40

1,040

計 (1,040)

2018(平成30)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	個 数	場 所	金 額
消 耗 品 費	照明器具交換			756
	学生証(Suica他付き)	210		586
	植物プランター 他		学内外	359
	計		(	945)
印 刷 費	○ 児童福祉研究室 刊行誌 パンフレット	600		1,000
	○ カルテファイル 学びのハンドブック	210		574
	○ 学生手帳	250		799
	○ 研究紀要	350		549
	○ 名刺、封筒			492
	計		(	3,414)
光 熱 水 費	○ 電気			13,178
	○ 水道			1,715
	○ プロパンガス			1,535
	計		(	16,428)
通 信 費	○ インターネット基本料金、デジタルサイネージ通信			899
	○ 保護者宛成績通知、保証人会、学納金			311
	○ 電話料			1,171
	計		(	2,381)
維 持 修 繕 費	○ 特定天井耐震改修工事	図書館	1号館	修 繕 ② 251
	○ 校舎漏水対策工事		1.3.4号館	修 繕 1,625
	○ 既存施設設備修繕費			2,800
	○ 構内樹木剪定		校地・グラウンド	3,111
	計		(	7,787)
支 払 報 酬 手 数 料	○ スクールバス委託運行費 (改定)	@4,903.25 × 4台 × 12 M	39%UP ④	58,839
	2017年度予算	42,250	16,589 円UP	
	○ 派遣職員			3,158
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬			4,604
	○ 校医料、健康診断料			829
	○ 食堂委託管理費			2,469
	○ 管理人業務費			7,475
	○ 業務用システム維持支援費		教学・広報	1,124
	○ 学生・教職員安否確認システム			556
	計		(	79,054)
賃 借 料	○ 防犯カメラシステム一式	19か所	学内外	685
	○ ペーパーレス会議システム	23	教授会	573
	○ 教員用ノートパソコン	23	研究室	521
	○ 職員用ノートパソコン	再リース 25台、サーバー1台	事務局	48
	○ コピー機、ファックス	事務局・2号館	3台	655
	○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	378
	○ 公用車リース料	軽自動車	1台	324
	○ スクールバス駐車場賃料(2号基本金対象)	2号館隣地	1,493㎡	2,400
	計		(	5,584)

2018(平成30)年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費		内 容	個 数	場 所	金 額
奨 学 費 (給 付)	○	眞鍋記念奨学金	10名		650
	○	児童福祉奨学金	4名	1年 1名、2年 2名	700
	○	卒業生・在学生家族	12名		500
	○	就学奨励奨学金	25名		1,570
	○	ボランティア活動奨励奨学金	1名		50
計 (					3,470)
広 報 宣 伝 費	○	入学案内書、媒体広告他			21,999
	計 (				
清 掃 費	○	日常清掃、定期清掃		全 館	14,078
	計 (				
既存建物撤去費	○	天井耐震工事 既存天井撤去費			② 2,773
	計 (				
雑 費	○	天井耐震工事 工事業者経費			② 52
	○	SD・FD研修会			200
	○	学生フェア、ウェルカムパーティー		4回	404
	○	卒業生記念品他			471
	計 (				

※ 主な事業計画	計	143,684
----------	---	---------

① 土地取得経費	2号館隣接地	総 額 ①	100,000
② 災害安全強化対策費	天井耐震補強工事 図書館	総 額 ②	21,552
③ 学生用ノートパソコン増設	33台 ラーニングセンターwill	総 額 ③	5,543
④ スクールバス運行費 改定に伴う増額分		総 額 ④	16,589

資金収支計算書（2014年度～2018年度）

学校法人和泉短期大学

（単位：千円）

					決 算	予 算
科 目		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	663,136	704,937	692,728	592,494	511,160
	手 数 料 収 入	11,241	9,884	7,808	7,135	8,358
	寄 付 金 収 入	1,337	1,060	4,003	3,545	1,000
	補 助 金 収 入	58,750	65,257	41,111	61,024	46,100
	資 産 売 却 収 入	0	212	0	0	0
	付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	916	2,692	1,869	1,261	300
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	13,315	9,250	9,322	14,994	15,864
	雑 収 入	1,921	32,457	11,178	19,874	8,186
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	270,520	235,160	191,565	170,420	213,450
	そ の 他 の 収 入	333,582	22,261	50,577	20,454	142,012
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 230,590	△ 312,052	△ 239,845	△ 210,822	△ 173,836
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,863,486	2,037,843	2,069,085	2,120,984	2,110,000
合 計		2,987,614	2,808,961	2,839,401	2,801,363	2,882,594
支出の部	人 件 費 支 出	375,093	417,217	397,141	401,712	397,866
	教 育 研 究 経 費 支 出	135,894	120,456	153,843	97,703	111,984
	管 理 経 費 支 出	99,875	95,228	105,112	98,188	113,483
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	23,306	386	1,470	7,498	121,762
	設 備 関 係 支 出	6,224	30,183	7,771	5,055	6,583
	資 産 運 用 支 出	301,875	70,684	46,536	75,234	69,578
	そ の 他 の 支 出	9,078	7,332	8,290	7,977	11,176
	予 備 費 支 出	0	0	0	0	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 1,574	△ 1,610	△ 1,746	△ 17,582	△ 1,637
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,037,843	2,069,085	2,120,984	2,125,578	2,021,799
	合 計	2,987,614	2,808,961	2,839,401	2,801,363	2,882,594
資 金 収 支 差 額		174,357	31,242	51,899	4,594	△ 88,201
短 期 大 学 学 生 数		533名	577名	565名	481名	410名
専 門 学 校（専攻科）学 生 数		23名	19名	18名	23名	8名
前年度対比学生数		△ 9名	40名増	△ 13名	△ 79名	△ 86名

事業活動収支計算書（2014年度～2018年度）

学校法人和泉短期大学

（単位：千円）

科 目		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
		金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	663,136	88.1%	704,937	86.7%	692,728	90.2%	592,494	85.3%	511,160	86.2%
	手数料	11,241	1.5%	9,884	1.2%	7,808	1.0%	7,135	1.0%	8,368	1.4%
	寄付金	1,337	0.2%	1,060	0.1%	4,003	0.5%	3,628	0.5%	1,000	0.2%
	経常費補助金	58,750	7.8%	52,807	6.5%	41,111	5.4%	55,608	8.0%	46,100	7.8%
	付随事業収入	916	0.1%	2,692	0.3%	1,869	0.2%	1,261	0.2%	300	0.1%
	雑収入	4,224	0.6%	32,457	4.0%	11,178	1.5%	19,874	2.9%	9,868	1.7%
	教育活動収入計	739,604	98.2%	803,837	98.9%	758,697	98.8%	680,000	97.8%	576,786	97.3%
	人件費	375,093	49.8%	415,229	51.1%	392,950	51.2%	398,813	57.4%	395,742	66.8%
	教育研究経費支出	197,030	26.2%	179,426	22.1%	214,811	28.0%	156,490	22.5%	171,072	28.9%
	（減価償却額）	61,139	9.0%	58,967	8.5%	60,973	8.5%	58,703	8.9%	59,088	8.6%
	管理経費支出	106,488	14.1%	101,982	12.5%	111,164	14.5%	105,753	15.2%	120,864	20.4%
	（減価償却額）	6,668	1.0%	6,716	1.0%	7,180	1.0%	7,369	1.1%	7,371	1.1%
	教育活動支出計	678,611	90.1%	696,637	85.7%	718,925	93.6%	661,056	95.1%	687,668	116.0%
	教育活動収支差額	60,993	8.2%	107,200	13.3%	39,772	5.2%	18,944	2.8%	△ 110,882	-19.2%
教育活動外収入の部	資産運用収入	13,315	1.8%	9,250	1.1%	9,322	1.2%	14,994	2.2%	15,864	2.7%
	教育活動外収入計	13,315		9,250		9,322		14,994		15,864	
	教育活動外支出計	0		0				0			
	教育活動外収支差額	13,315		9,250		9,322		14,994		15,864	
経常収支差額		74,308	9.9%	116,450	14.3%	49,094	6.4%	33,938	4.9%	△ 95,018	-16.0%
特別収支	資産売却差額			212		0		0		0	
	その他の特別収入			12,450	1.5%	0	0.0%	7,785	1.1%	0	0.0%
	特別収入計	0		12,662		0		7,785		0	
	資産処分差額	4,041		383		359		654		242	
	その他の特別支出			22,370		446		662		0	
	特別支出計	4,041		22,753		805		1,316		242	
特別収支差額		△ 4,041		△ 10,091		△ 805		6,469		△ 242	
【予備費】										30,000	
事業活動収入		752,919		825,749		768,019		702,779		592,650	
事業活動支出		682,652		719,390		719,730		662,372		717,910	
基本金組入前当年度収支差額		70,267		106,359		48,289		40,407		△ 125,260	
基本金組入額		△ 14,426		△ 615		△ 5,638		△ 10,657		△ 127,956	
当年度収支差額		55,841		105,744		42,651		29,750		△ 253,216	
前年度繰越収支差額		2,684,615		2,740,456		2,861,924		2,927,575		2,869,387	
基本金取崩額		0		15,723		23,000	第4号基本金	0		0	
翌年度繰越収支差額		2,740,456	0	2,861,923		2,927,575		2,957,325		2,616,171	
事業活動収支差額比率		9.3%		12.9%		6.3%		5.7%		-21.1%	

教育活動収入－（教育活動支出－減価償却費）	128,700		172,883		107,925		85,016		△ 44,423	
-----------------------	---------	--	---------	--	---------	--	--------	--	----------	--

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
基本金組入額	△ 14,426	2.0%	△ 615	0.1%	△ 5,638	0.7%	△ 10,657	1.6%	△ 127,956	22.2%
（第1号基本金組入額）	△ 13,919	-1.9%	0	0.0%	△ 5,023	0.7%	△ 10,042	1.5%	△ 126,741	22.0%
（第2号基本金組入額）	0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
（第3号基本金組入額）	△ 507	0.1%	△ 615	0.1%	△ 615	0.1%	△ 615	0.1%	△ 1,215	0.2%
（第4号基本金組入額）	0		0		0		0		0	